

父に生きた人！！父に生きるとき 「神様の計画が成し遂げられる～」

創世記 48:1-8 創世記49:1-28

■ 本来の姿を知っている自然、 本来の姿を失いつつある人。

梅雨はスコールのように。山は杉と檜だらけで悪循環。神様の役割に立って生きる時、ズレていってしまったものが少しでも回復し。終わりに向かっているんだ。明日世界が滅亡しようとも私はりんごの木を植えるんだ。イエス様の十字架のような生き方。

蜂と蜘蛛の巣を見ると完璧に作られている。しかし、それを習ったからではない。知っているだけ。雨の時に、道に水溜りができいたところに、その水たまりで人が困るだろうと黙々と処理していたお爺さんがいた。このお爺さんも人としてどう生きるかを知っている。人間は自分の存在意義を知っているはず。しかし、行動を見ても、言葉を見ても今の方が劣化しているのではないかと考えさせられる。

■ ご利益の神様？自分が神様？

神様の前でどんな生き方をしているでしょうか。自分の欲しいものがあるときだけ向き合う猫ようになってないか。ある蕎麦屋さんが今までは美味しかったし店員の接客もすごく良かったのに、注文もタブレットに変わって店員の態度も変わってしまったて残念だと話を載せると、たくさんお批判が。人は善悪を知るみを食べてからは、神からは善悪を判断する権限をもらってないのにそれをするようになってしまった。私たちは人を裁くために存在するのではない。与えられた良心と未言葉に立って、そこに問題や痛みがあるのなら解決者として歩むことができる。

ポイント

- ※失敗と苦難の中に成長させる神
- ※尊敬を受ける生き方へ
- ※意味を見出だす道
- ※絶対に曲げてはいけないこと
- ※呪いを祝福に変える神

■ 苦しみの中にある奥義

ヨセフの生き方は後にくるイエス様の雛形でもある。ヨセフの人生には自分が仕えた人から、そして兄弟からも裏切られる痛みを通り越えて、エジプトに逃れて、再び帰ってくるストーリーを通して聖書がどれだけ一貫して私たちに伝えようとしているかを教えてください。ダビデの歌にも出ています。「苦しみに合うことは私にとって幸いでした」。苦しみの中で奥義を教えてください。義のために迫害されているものは幸いであれ。正しいことをして迫害されるのであれば自信を持って神様の前に祈ることが大切。

その中で気をつけるところは自分のためなのか、相手のためなのかを測ること。父と母が子供を思う愛とちかく、自己犠牲があるのか。自分の欲のためなのか。

■ 神の御心に合ったヨセフ

ヨセフは諦めなかった。苦しみが来た時に逃げることもできた。しかし、ヨセフはその都度真剣に向き合った。だから、その家が救いに向かい、ユダが変わる時間とチャンスを与えた。イエス様につながるユダの民族はヨセフが諦めずに向き合ってきたから立てられたのである。ヨセフは自分を売ってしまった兄弟を受け入れて 17 年間良いものを与えたのに、それでも、ヤコブが死んだら兄弟たちは父がいないから自分たちはやり返されるんだと恐る。このようなことを思われながらもヨセフは兄弟たちを受け入れていた。

神様の永遠の計画が決まっている。しかし、それを人間に任せられた。ご自分の心と一つになる者を探されている。

ご自分の心と一つになる＝神様の目で愛する者。

ヨセフは神様と心が一つになって、兄弟たちを愛して受け入れた。そして、自分の今年か考えることができなかつた兄弟たちのために、彼らが悔い改めるように導いた。

私たちも長い歴史を通して訓練を受けるが、それを通して神様から与えられた良心が回復するように目を向けていきたい。

■ ヤコブの子孫

ルベンは「水のように奔放」なので、後に子孫が続かない民族に。彼は間違ったことをした時に本当の道に戻らなかった。シメオンとレビは仕返しをした。礼拝を司ることが任された人が、人が悪くしたからって裁いたり、仕返ししたりしてはならない。それは神が見られているところだから。愛で神様のところに導くためにブロックすることは大事です。責任を取ろうとすること。

ユダは諦めなかったから主が共におられて祝福された。

私はどちらを選ぶ？ルベンのように妥協する人生になるのか、ユダのように変貌し責任を取るようになるのか。

■ リビングストーンとビクトリアの滝

アフリカに宣教に行ったリビングストーンは探検家でもあったのでアフリカの様々な産物を研究する知恵があった。その時にビクトリア滝を見つけた。しかし、住民は部外者の彼を殺そうとしたけれども、彼らは武器を持たずに正しい言葉と行いと愛で向き合った。その住民と融和を築いた結果、今はビクトリアの滝は観光地となって多くの人を訪れている。

人の生き方はつるぎを持って相手を傷つけることもできるし、言葉で相手をたてあげることもできる。言葉を持って正しく歩もうとする兄弟がいた。皆さんは、男は力を持っているが、それは何のために与えられているのか。人を傷つけるためなのか。神の愛を受けて流すためである。男は男として、女は女としてその役割を持って愛を流す。

まとめ

自分の考えが、聖書に照らし合わせて正しいかを判断しましょう。私たちは御言葉に自分の考えを照らし合わせて手を上げて祈るんだと宣言している。そんな時に、ヨセフのように意図しない誘惑や妨害が起こる。しかし、そんな時こそヨセフがしたように諦めずに、自分が変わるべきことがあるなら神様の前で祈り、信じて、神様の約束を貫くことが必要であ

(要約者:李 雋英)

(2024年6月23日)